

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第7回 熱海市立図書館と読書週間

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591



現在も続いている読み聞かせの会

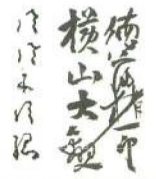
昭和42年に文化会館内に誕生した待望の「熱海市立図書館」。蔵書数も増え、市民が集う場として整備された図書館では、さまざまな催し物が行われるようになりました。平成に入ってから「絵本の読み聞かせの会」や、「しかけ絵本展」、「人形劇」、「製本と楽しい仲間達展」などが行われています。これらは市民の皆さんと協力して行った活動で、本を読むだけではない図書館の新たな魅力を発信するきっかけと

なりました。

催し物の中でも特に好評だったのが、「読書週間記念講演会」です。文化会館の完成前から読書週間に合わせて開催されてきた講演会は、文化会館にできたホールを利用してさらに規模を拡大、より多くの市民が来場するようになりました。

「読書週間」とは、毎年10月末から11月にかけて読書の楽しさや習慣づけを呼びかける全国的な行事です。大正13年に始まり、戦時中に廃止されたものの、昭和22年に改めて設けられた読書週間は、熱海市立図書館の前身である市立熱海図書館でも昭和23年から開催されました。第1回の読書週間には、熱海在住の名士による「読書懇談会」が開催され、徳富猪一郎（蘇峰）、横山大観、佐佐木信綱など、そうそうたる顔ぶれが参加しました。

昭和二十三年十月五日



読書懇談会の署名

熱海の読書週間は、その後も郷土資料の展覧会や講演会、座談会や俳句会、また、レコードコンサートなどが行われており、当時の関係者の意気込みが感じられます。読書週間を広報するポスターも、

第1回は手書きによるものでしたが、昭和23年からは印刷され図書館の資料として保存されています。

平成27年度の読書週間の標語は「いつだって 読書日和」ですが、再開された昭和22年は図書館ごとに標語を募集していました。残された記録によると、昭和31年の標語は「あかるい生活 楽しい読書」、昭和32年は「今日の読書は あすへの希望」で、戦後の発展期にある日本の社会情勢がうかがえます。

また、昭和37年から作製が始まった「読書週間記念カレンダー」は好評で、特に図書館所蔵の古絵図を使ったカレンダーは人気でした。このカレンダーによって、熱海の歴史に関心を抱く市民も増えたといわれます。



読書週間記念カレンダー

今回、創立100周年を記念して、かつての「読書週間記念カレンダー」同様の「熱海市立図書館所蔵古絵図カレンダー」を作製する予定です。ご期待ください。

市長メッセージ 93

チーム熱海で満足度アップ!

熱海市長 齊藤 栄



今年の夏は、市内海水浴客が昨年比25%増、シルバークロウも初島航路の乗船客数が今夏の最多記録を塗り替え、熱海駅前商店街は閉店時間を遅らせるなど大きな賑わいを見せました。

しかしながら、私には大きな不安もあります。お客様は常に熱海を厳しく値踏みしています。もし、「評判ほどでもなかった」「期待外れだった」と思われれば、また少しでも熱海で何か不愉快な思いをすれば、二度と見向きもしてくれませんか。熱海は今、正念場にいるのだからと思っています。「日本でナンパワンの温泉観光地」を目指して、熱海が一段上の観光地になるため、さらにお客様の満足度を上げるためにはなりません。

行政は道路や歩道などのインフラ整備や、熱海市全体のPR（シティプロモーション）といった、行政にしかできないことを責任を持って行います。そして市民の皆さんには、熱海にいらしたお客様の満足度を上げるためのお手伝いをぜひしてほしいのです。何も特別なことをするのではなく、ご自身の持ち場で少しご協力いただければ十分です。例えば、お客様に接する方であれば、普段のサービスに加えて、熱海のイベント情報や、熱海の住人だけが知っている絶景ポイントを教えてあげる、お客様に接する機会が無い方は、家やお店の周辺を掃除して、お客様に気持ち良く過ごしてもらおうといったことなどです。

熱海の持つ素晴らしい景観、食の美味しさ、温泉文化などを、お客様に心から満喫していただけるように、そして熱海のファンになっていただけるように、市民が一丸となって、「チーム熱海」で力を合わせていきたいと思います。